

第10回 “命のキャラバン” 運動趣意書

—臓器移植を普及させるために—

謹啓、残暑の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たち石川県腎友会は、これまで腎疾患総合対策の一環として腎移植推進を訴え、平成9年の臓器移植法の施行に伴い、広く臓器全般にわたる移植の推進を目指して活動しています。

脳死移植法の施行により脳死からの移植の開始により一般の人の意思表示カードへの関心が高まったことは大変喜ばしいのですが、その反面、脳死からの移植ばかりが注目され、今まで可能であった心臓死からの腎臓提供はかえって減っている状況です。

石川県では県や関係機関の諸先生のご努力により、他県に比べ移植コーディネーターの整備も進み、様々な体制作りも着々と進んでいきましたが、臓器提供に関しては足踏み状態でした。

そこで、私たち石川県腎友会では、平成11年から“命のキャラバン”と銘打ち、この臓器提供に最も重要な位置にある救命救急医や脳神経外科医の先生に移植へのご理解を得るために、県下の移植情報提供病院を回らせて頂きました。腎移植を受けた特別会員から直接、生活の質が格段に上がった移植後の生活などを聞いて頂き、また、それぞれの病院の現状や現場の先生のご意見を伺い、今後の運動の参考にもさせて頂きました。

この度、臓器移植法改正案が12年の時を経て国会で審議され、臓器提供の年齢制限の撤廃や、本人の意思が不明であっても家族の同意で提供が可能となるなど、患者にとって画期的な内容の法案成立となりました。今年の“命のキャラバン”運動では、この法案成立を背に受けて一層の移植が進むことを願い、別紙運動日程により貴病院へ訪問させていただき予定を致しておりますので、宜しく願い申し上げます。

本年も会の総力を挙げてこの運動に取り組み移植推進に拍車をかける所存です。

“命のキャラバンを”を通じ移植者と移植を待つ患者の生の声を聞いて頂き、臓器移植にご理解を頂き、移植推進にご協力下さいますよう何卒お願い申し上げます。

敬白

平成21年 9月

石川県腎友会
会長 越野勝

